

## “SDGs Anticipation Guides” Activity

教科: 探究活動・学活・国際理解・道徳・国語・英語・社会

使い方: クラス内 **SDGs**に関する授業の導入の学習活動として

SDGsに関する事前知識は生徒によって大きく異なるのが実情です。このアクティビティではSDGsに関する実際の知識のインプットに入る前に生徒のSDGsマインドを呼び起こすことが出来ます。この活動を行うことにより、生徒間の発話を活性化され、次の学習活動への良いステップになることが期待されます。

このレッスンのポイントはSDGsに関する多くの誤解をリスト化し、同意する・同意しないかを生徒同士で授業前後で計二回ディスカッションさせる点です。

このアクティビティを導入に持ってくることにより、トピックを基にした発話が生まれ、その後のクラス展開が楽になることでしょう。またSDGsに関する調べ学習を実施する際もクラスでの導入アクティビティを最初にする事によって、各生徒自身がどのSDGs、どのサステナビリティ項目（経済、社会、環境）に興味があるか自分で気付く機会にもなります。宿題でSDGsに関する調べ学習をさせる際の導入学習活動にも最適です。

実施方法（1時間以上）

- ・生徒を各グループに分けます
- ・SDGsのトピックを選びます（学習の進度に応じたもの、SDGs1ー17など）
- ・各ターゲットに関する「誤解の多い情報リスト」をインターネットを使ってリサーチし、集めます。その際、生徒の理解や学習進度に応じたものを選ぶようにしましょう。
- ・「誤解の多い情報リスト」は最新のデータから選ぶようにしましょう
- ・各項目に対し4～6つの情報を集め、生徒に提示します。デジタルでも実際に印刷されたものでも、生徒が近くで手に持って「同意する」「同意しない」を書き込めるスペースが有るように配慮しましょう。難しい単語がある場合は写真や補足をつけるようにします。

（例）

- 世界全体で、25年前よりも貧困状態で暮らす人は減った、関連するSDG:SDG1
- 世界にはすべての人にゆきわたる分の食料がつけられている、関連するSDG:SDG2
- 日本では平等に所得の分配が進んでいる、関連するSDG:SDG10

・生徒はそれぞれのリストを1つずつ読んで、同意か同意しないかをディスカッションしグループの答えを選びます

（授業のあと）

・もう一度授業前に行った「誤解の多い情報リスト」を配ります。生徒はリストを同じメンバーで眺め今一度そのリストの項目に賛成・反対を話し合います。その際生徒は同意・同意しないに至った経緯をデータ等理由を付けて再度説明します。この際、授業の最初に利用したリストは見ないようにさせましょう。教室掲示などをする際は左が授業前、右が授業後として比較できるように、またいかに生徒の考えが変化したかを文字化させて横に書いておくと面白い掲示資料になります。